

主の選び

(エレミヤ1・4～8)

一、選びと召しの不思議

4節、5節をご覧ください。〈次のような主のことが私にあった。「わたしは、あなたを胎内に形造る前からあなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた。〉とあります。主はエレミヤを、イスラエルのみならず異教の国々への預言者としても選んでおられました。この出来事があったのは、南王国ユダの王ヨシヤの治世第13年、すなわち紀元前627年、ないしは626年のことです。2節に記されています。〈このエレミヤに主のことがあった。ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代、その治世の第十三年のことである。〉と。ヨシヤ王と言え

直後であったことが分かります。そして、エレミヤが預言者としての召しを受けてから5年後に、神殿で律法の書が発見され、ヨシヤ王は宗教改革を押し進めて行ったことが分かります。

主がエレミヤに預言者として立ち上がるように声をかけられたのは、神の時でした。エレミヤが当時の社会情勢を見つづ、祈って「今が立ち上がる時だ」と判断して、立ち上がったのではありません。主がエレミヤに対して、今から預言者になり、国々に主の言葉を語るべく立ち上がるように招かれ、エレミヤが応答した時期が、ヨシヤ王の治世の第13年であったということですから、ヨシヤ王にとってエレミヤは、宗教改革運動を進めるにあたって必要な人材となりました。

二、主の選びと召しを知る

エレミヤは主の招きのことばに躊躇しました。6節です。〈私は言った。「あ、神、主よ、ご覧ください。私はまだ若くて、どう語ってよいか分かりません。〉。エレミヤが躊躇した理由は、若いということだけではなかったと思われま

れて、あなたに捕らえられました。あなたの勝ちです。わたしは一日中、笑ひ者にされ、人が皆、わたしを嘲ります。

(略) 主の名を口にすまい、もうその名によって語るまい、と思っても、主の言葉は、わたしの心の中、骨の中に閉じ込められて、火のように燃え上がります。押さえつけておこうとして、わたしは疲れ果てました。わたしの負けです。〉と。ここに、預言者として選ばれ召された者の姿が書かれています。預言者は自分が考えたこと、思いついたことを語るではありません。主が授けてくださったことばを語るのです。それがどういふことなのかについて、20章9節が語っています。

三、主の選びと私たち

そういうわけで、すべての人が主の預言者として選ばれたわけではありません。且つ預言者に選ばれたからといって、偉くなったわけではありません。ちなみに主の預言者は、今日に当てはめれば、牧師・伝道者がこれに当たりま

〈11ペテロ1・10〉 こうして選びと召しに応ずる者は、苦難に遭います。

〈11テモテ3・12〉 ですが主は、選

び召された者を守られます。エレミヤ書に戻って、1章8節です。〈彼らの顔を恐れるな。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。――主のことば。〉とあります。〈あなたを救い出すからだ。〉と。いふことばからして、エレミヤの生涯において、いのちに関わる危うさがやって来ることを暗示しています。現に、エレミヤの生涯はその通りでした。私たちに当てはめると、キリスト者として、主の召しに答えて生きて行くのは、けっこうたいへんなことと言えます。ですが、主のことばを思い起こしてください。〈わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。〉です。このことばは、主がエレミヤに語ったことばであると同時に、主を信じる一人ひとりに語っておられることばです。主イエス・キリストも語られました。マタイの福音書28章20節です。〈見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。〉と。

エレミヤが主の預言者となるべく選ばれ、召され、召しにに応じて聖別されたように、私たちもキリスト者となるべく選ばれ、召され、召しに応じて聖別されました。主の選びと召しに答えて、応答する者とされようではありませんか。